



宮司プレス第百二十六号

彦島八幡宮 宮司 ニュース  
発行者 彦島八幡宮  
宮司 柴田 宜夫  
発行 平成三十年 七月十五日

◇宮司の柴田です。「梅雨明け十日」という言葉をご存知ですか。中国地方も例年より早く梅雨が明けたようですが、梅雨明けからの十日間くらいは、雲ひとつ無く、しかも、灼熱（しやくねつ）の太陽に覆（おお）われた厳しい暑さの天候が続くそうです。いよいよ夏本番を迎えました。西日本におそった豪雨、平成最悪の災害となりました。尊い命を失われた方々の御冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆様へも、お見舞いを申し上げます。このたびの豪雨災害は、「平成三十年七月豪雨」と名づけられました。毎年のように深刻な自然災害が起こっています。昨年は、九州北部豪雨、一昨年は、熊本大分の地震、平成二十七年は、鬼怒川（きぬがわ）が氾濫（はんらん）した関東の豪雨、平成二十六年は御嶽山（おんたけさん）の噴火と広島島の土砂災害等、枚挙に遑（いとま）がありません。「観測史上初めて」が、流行語大賞に輝いたのは、平成二年の事であります。

◇宮司プレス既刊号である百号にも掲載しましたが、幕末の神道家（しんとくか）である本田親徳（ほんだ ちかあつ）は、

「音に聞き 眼に見えるもの（ことごと）に

と詠（よ）まれていきます。

また、宮司プレス九十七号にも記載しましたが、文明十八年、西暦一四六八年に、吉田神社の神職であった吉田兼邦（よしだ かねくに）は、「天地の 中にみちたる 草木まで

神の姿と 見つつ恐れよ」

という和歌を残されています。哲学者の西田幾多郎先生も、「見えるものは 見えざるもの影」とおっしゃいました。大自然の海山川、引き起こされる自然災害、草や木まですべてが神様からの恵みであり、なせる業（わざ）なのですから、奇（く）しくも尊（とうと）いものと恐れなければなりません。言葉には、「魂（たましい）が宿っている」と、私共の御先祖様は考えておられました。それは、私共の心は目に見えません。その見えない心を形に表したのが、「言葉」「言霊（ことだま）」なのです。見えざるものの影と恐れ、敬う、このミックスした心を形にあらわしたものが、「畏敬（いけい）」「畏（かしこ）み」という言葉です。◇今のように文明も医学も進歩していないこ

ろ、身の回りにおこる、ごく一部の不幸な出来事や病氣や怪我（けが）は、「ツミ」「ケガレ」からもたらされると考えられていました。その「ツミ」「ケガレ」を祓（はら）って、ごく一部の不幸な出来事にあわずに、「流行（はや）り病（やまい）」にもかかわらず、この夏をのりきり、少しでも幸せな暮らしを祈り願ったのでした。これが、今月、兼務社、末社を含め齋行（さいこう）する夏越祭です。

◇われわれ人間は、自分の生死を自分でコントロールすることはできません。天、すなわち神様や自然といった人知（じんち）を越えた大いなる力のもとに存在しています。まさにそれは、遺伝子研究の世界的権威（けんい）である村上和雄（むらかみ かずお）先生のおっしゃった、「サムシング グレート 大いなるなものか」ということではないでしょうか。村上和雄先生によりますと、一つの生命細胞がこの世に生を受ける確率は、一億円（けう）の宝くじが百万回続けて当たるほど希有（けう）なことであるそうです。われわれの命は、奇跡（きせき）のものでもありません。その尊い命を自然災害でなくしてしまわれたのですから、辛く悲しい出来事です。これまで、沢山の方が自然災害で犠牲（ぎせい）にられました。生かされている私共、「至誠（しじやう）則（すなわ）く悔（くわい）しむる」（「せいそくたつ」）、辛く悲しい立場にをられる方々のことを思いやる、心を寄せ続けなければなりません。江戸時代

後期の米沢藩主の上杉鷹山(うえずぎ ようざん)の指南役(しなんやく)をつとめた、細川平州(ほそかわへいしゅう)は、「学思行(がくしこう)相(あい)まって良(りょう)となす」と論(ろん)されました。学んだことをよく考えて、そして、実行してはじめて、本当に学んだことになるという教えです。

「異常気象」が、日常と化しているなか、私共は、この西日本の豪雨がもたらした「平成三十年七月豪雨」の災害を教訓として、「学思行相

### ま

めて良となす」、しっかりと、防災減災につとめてまいらなければなりません。日々の祭典奉仕で、祝詞(のりと)のなかで神様に、「畏み」という言の葉を何回奏上していることでしょうか。今年の夏越祭は、衿(えり)を正して真心こめて、「畏み」という言の葉を奏上し、一意専心、神明奉仕につとめ、祈りをささげなければと思いを新たにしています。ご自愛を祈ります。

◇七月の祭典行事報告、予定事項

▼月次祭 \*七月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 \*七月一日

▼六連島八幡宮七社祭 \*七月九日

※六連島に鎮座する、貴布禰神社・大歳神社・宗像神社・峯像神社・恵比須神社・西海大明神・荒神社の例祭。「オキヌ替

え」ともいわれるお祭り。

▼竹の子島天満宮例祭 \*七月十五日

▼朝粥会 \*七月二十一日

▼夏越祭

◆田の首八幡宮 \*七月二十二日

◆六連島八幡宮 \*七月二十五日

※六連島の各家のお祓い、戸別祓いを齋行

◆彦島八幡宮

◇前夜祭 \*七月二十九日

◇御神幸祭 \*七月三十日

◆海士郷恵比須神社 \*七月三十一日

◇七月の宮司の行事会議等活動報告、予定事項

▼八幡宮関係団体

◇とこわか奉納グラウンドゴルフ会夏越祭杯

\*七月八日

◇敬神婦人会役員会 \*七月十一日

◇敬神婦人会除草作業奉仕

\*七月二十二日

◇奉賛会行事委員会・維蘇志会奉仕作業

\*七月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県神社庁役員会、支部長事務局長会議

◇山口県八幡宮会役員会、総会

\*七月四日

◇下関支部総代会敬神婦人会役員会

\*七月十二日

◇神道史研究会総会 \*七月十三日

◇山口県神社総代会役員会

◇教学研究部内「御大礼勉強会」

\*七月十七日

◇中国地区氏子青年青年神職研修会

\*七月二十一日～二十二日

◇神職養成講習会開講式

◇御世替対策本部会議

\*七月二十四日

◇神宮大麻都市頒布対策委員会

\*七月二十六日

◇神職養成講習会「神社神道概説」講義

\*七月二十六日、七月二十七日

※一コマ五十分の六コマ、五時間

▼その他

◇下関西ロータリークラブ

◆習字教室 \*七月二日

◆例会 \*七月十八日

◇人権擁護委員

◆人権相談 \*七月五日

◆人権研修 \*七月十八日

◇迫町自治会役員会 \*七月十八日

◇社会福祉法人中部少年学院後援会役員会 \*七月十六日

◇美祢社会復帰促進センター集合教誨

\*七月二十三日